

(7) 平成30年度上期下水道事業の概況

ア 建設事業の状況

既成市街地の汚水事業では、江戸川左岸流域関連下水道事業について、今年度整備予定面積約25ヘクタール（汚水管布設工事9件）全てを発注した。また、手賀沼流域関連下水道事業は、整備予定面積約5ヘクタール（汚水管布設工事4件）全てを発注した。

既成市街地の雨水事業では、大堀川1号雨水幹線整備事業について、下流側約67メートルの区間の工事が完了した。さらに上流側の区間について、平成30年、31年度の2か年継続事業として工事延長約308メートルの区間の工事を発注した。

また、向小金雨水幹線事業において、鉄道軌道下推進管の上流及び下流に合流マンホールを築造する工事が完成した。今後は、舗装の本復旧工事を実施する。

つくばエクスプレス沿線整備では、汚水及び雨水事業の土地区画整備事業者と業務委託を締結した。両事業の今年度整備予定面積は、汚水事業が8.0ヘクタールであり、9月末現在で50%を発注した。また、雨水事業が0.3ヘクタールであり、9月末現在で整備予定の約50%を発注した。引き続き地区内造成事業の進捗に合わせて整備を進める。

イ 業務の状況

当期の排水区域人口は、165,624人で、前年同期に比べ7,674人（4.86%）の増加があった。

行政区域内人口と比較する普及率は、87.57%で、前年同期に比べ1.61%の増となった。

ウ 経理の状況

上期における総収益は、1,821,824,827円で、前年同期と比べ48,470,764円の増額となった。総費用は、1,006,262,072円で、前年同期に比べ3,646,039円の減額となった。税抜きによる総収益1,746,916,979円か

ら総費用1,003,784,531円を差し引いた当期の損益は、743,132,448円の純利益となった。

収益の内訳は、営業収益が1,359,459,991円で前年同期に比べ165,298,605円(13.84%)の増収となった。このほか、営業外収益は462,364,836円で、前年同期に比べ116,827,841円(20.17%)の減収となった。

次に、費用の内訳では、営業費用が825,666,754円で前年同期に比べ23,335,192円(2.91%)の増額となった。このほか、営業外費用は180,381,181円で、前年同期に比べ13,633,117円(7.03%)の減額となった。